



第8章 世界における脱炭素化への貢献

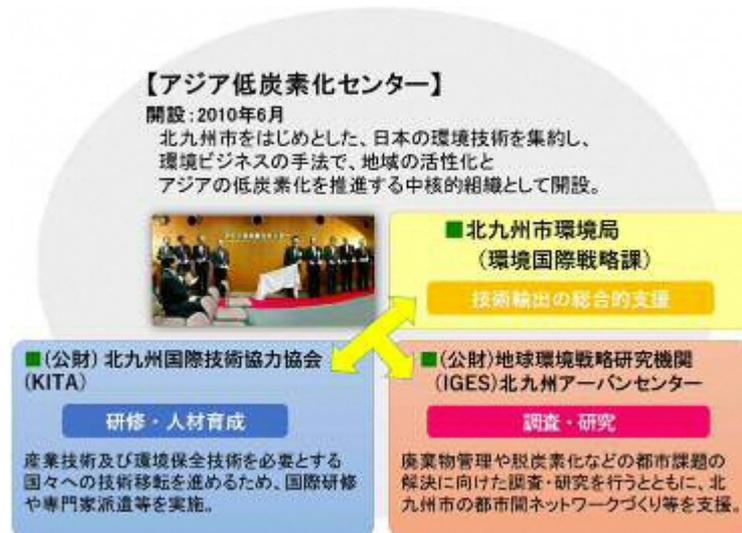
1 環境国際協力・ビジネスによる貢献

(1) 取組みの方針

「アジア低炭素化センター」(2010年設立)を中心とし、アジア諸都市との環境国際協力ネットワークをベースに、廃棄物処理などアジア諸国の喫緊の課題解決や廃プラスチック対策、気候変動対策など世界的な課題の解決と豊かな社会発展に貢献するとともに、近代産業発祥の地から、『環境と経済の好循環』を実現する新たな「北九州モデル」を広く展開し、世界の脱炭素化に貢献します。

(2) 推進体制

北九州市(環境局)に、公益財団法人北九州国際技術協力協会(KITA)、公益財団法人地球環境戦略研究機関(IGES)北九州アーバンセンターを加えた三者によって組織する「アジア低炭素化センター」が、関係機関や市内企業と連携し、また独立行政法人国際協力機構(JICA)など国際機関の支援を得ながら、アジアの都市間ネットワークを活用してプロジェクトを推進します。



(3) これまでの貢献(実績)

① 北九州方式生ごみ堆肥化事業の推進

東南アジアにおける「北九州方式生ごみ堆肥化事業」の域内拡大を目的として、ベトナム・ハイフォン市、ミャンマー・マンダレー市、インドネシア・スラバヤ市でコンポストの普及に取り組んできました。





② アジアの環境人材育成事業

JICA 九州の支援のもと、(公財)北九州国際技術協力協会(KITA)が中心となり、市内企業の技術等を活用した外国人材向け研修を実施。アジア地域の環境改善と低炭素社会づくりに貢献するための研修員受入を行いました。

③ グリーン成長戦略の普及・日中大気汚染・省エネ対策共同事業

経済協力開発機構(OECD)が進めるグリーンシティ・プログラムのアジア展開と連携し、アジア地域におけるグリーン成長政策の普及を推進しました。また中国では、大気汚染の改善と地球温暖化対策技術の導入に向けた専門家派遣や研修受け入れ等の環境国際協力を進めるとともに、共同研究等の実施により、PM2.5をはじめとする大気環境改善とCO₂削減に貢献しました。

④ アジア低炭素化センター推進事業

市内企業等に対して、ワンストップで総合的な支援(国等への資金支援制度や市の助成金制度の紹介、相手国政府・関係機関との調整、その他様々なアドバイス等)を行い、アジア諸都市のニーズに即した技術輸出の拡大を図りました。また、ビジネスの手法による課題解決策を積極的に進め、アジア地域の低炭素化の実現に寄与しました。

⑤ 循環型都市協力事業での「エコタウン」協力

中国では、東アジア経済交流推進機構を通じた交流実績のある都市(大連市、青島市、天津市)からの要請により、日中政府間での合意に基づいたエコタウン協力事業(計画策定支援や人材育成)を行い、各都市のエコタウン建設とCO₂削減に貢献しました。



また、タイではタイ工業団地公社等と「ラヨン県のマプタプット工業団地及びIRPC 工業団地におけるエコ・インダストリアルタウン」の推進に向けた協力覚書に基づき、低炭素型・工業団地廃棄物トータルリサイクル事業をはじめとした各種事業に取り組んできました。

(4) 今後の取組みについて

① 今後の取組みの方向性

北九州市が目指す2050年の脱炭素社会の方向性として示す「Ⅰ:エネルギーの脱炭素化」「Ⅱ:イノベーションの推進」「Ⅲ:ライフスタイルの変革」「Ⅳ:気候変動に適応する強靱なまち」を同時実現する新たな「北九州モデル」を整理するとともに、同モデルを活用してアジア諸都市のグリーン成長に貢献します。



② 削減目標

(ア) 目標の考え方

アジア地域における目標としては、①本市の環境国際協力や技術移転による直接的な削減量とその技術の応用、②マスタープラン策定などにより貢献した都市・工業団地全体の CO₂ 削減量、③市内企業の製品の使用などによる副次的な削減量などによる「CO₂ 削減量」を設定することとします。なお、積算方法については現在確立していない部分があるため、国や他自治体の動向を見ながら検討していきます。

(イ) 2050 年(目指すべき:ゴール)と 2030 年度(達成目標:ターゲット)

市域の削減目標の基準年である 2013 年度の市内の温室効果ガス排出量をベースに、以下のとおり設定します。

2050年(目指すべき姿:ゴール)

アジア地域全体に本市の「ゼロカーボンシティ」に向けたノウハウを輸出することで、2013年度の市内の温室効果ガス排出量の**150%以上の削減を目指す**

2030年度(達成目標:ターゲット)

国内同様、中間地点として**今後10年が極めて重要な期間と認識し**点から面への支援に移行することで、**2013年度比で75%の削減**

	2013年度の 本市排出量	2020年度	2030年度	2050年に 目指す姿
CO ₂ 排出削減量 (累計万t)	2,017万t	▲121	▲1,512	▲3,026
CO ₂ 排出削減量 (%)	-	▲6%	▲75%	▲150%